

エリア ウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>
ご意見・ご感想はこちらまで Email : miyazaki-atru@pref.yamanashi.lg.jp

「地域の人たちの温かい拍手のおかげで続けられた。」

この言葉は、2月10日笛吹市内の「公民館まつり」に出演したとき、参加者に挨拶をしていた山梨園芸高校の「すいれき太鼓」部の部長の言葉です。当日は、笛や太鼓だけでなく三味線や琴なども入り、優雅で力強い演奏に圧倒されました。また、朝一番には、地元の八代小学校の金管バンドの子どもたちも、関東大会で演奏した曲を披露してくれました。これも明るく子どもらしい楽しい演奏で、温かい雰囲気が会場を包んでいました。すばらしい演奏やしし物を観て、会場に集まった300人以上の人たちが大きな拍手をおくっていました。

最近、小学生から高校生、地域の大人、お年寄りが同じ場所で同じ時間を過ごすような機会はめっきり少なくなってきました。

「地域の子どもは、地域で育つ」と言います。よい作物は、よい畑から育つものです。子どもたちは、まず家族、そして地域の大人を見て成長していきます。そのためには、お互いをよく知ることが、地域教育の第1歩ではないでしょうか。道で子どもたちとすれ違ったとき、挨拶だけでなく「元気か?」「大きくなったなあ」などと声をかける。また、いけないことをしていたら、自分の子でなくても「だめじゃんか」と注意をする。このように、地域の人たちが地域の子どもたちを温かくも厳しい目で見守ることが、山梨園芸高校の部長が言っていた「拍手をおくる」ことにつながるのではないのでしょうか。



《 八代小学校 金管バンドの演奏 》



《 山梨園芸高校の「すいれき太鼓」の演奏 》



金管、和太鼓、民謡、フラダンス、カラオケ、新舞踊、中国雑伎などが会場狭しと大活躍。

下の写真のように、お年寄りや地域の方々も大勢参加し、楽しいひと時を過ごしていました。

《 地域の方々のフラダンス 》



《 地域の方々の民謡 》



皆さんがご覧になっているエリアウェブは峡東教育事務所で発行しています。また、事務所では高齢者対象の山梨ことぶき勸学院の東山梨学園と東八代学園の運営も行っています。皆さんの身近に、健康で学ぶ意欲のある方がいらっしゃいましたら、勤めていただきたいと思います。

平成20年度

山梨ことぶき勸学院

学生募集中です

高齢者のための生涯学習大学校

< 共に学び、明日への生きがいを育てましょう >

山梨ことぶき勸学院（修業年限は2年）は、人生80年時代に、高齢者の学習ニーズに応え、長年培ってきた知識や技能をさらに磨き、充実した生きがいを創造し、地域文化の振興に参画する活力ある指導者としての資質を身につける場です。

山梨ことぶき勸学院は、山梨県教育委員会社会教育課の行う事業です。



< 授業風景 >

学園名	活動日	学習の場	定員
東山梨学園	主に金曜日に活動	山梨市民会館（山梨市万力 1830）	40人
東八代学園	主に木曜日に活動	八代総合会館（笛吹市八代町南 527）	40人

山梨ことぶき勸学院 Q & A

問1. 入学資格は、どのようになっていますか？

おおむね60歳以上の、健康で学ぶ意欲のある方。通学可能なら、どなたでも入学できます。募集人員は各学園40人で、定員に達し次第締め切ります。

問2. どこへ申し込めばいいですか？

関心のある方は、まずは峡東教育事務所（東山梨合同庁舎2階）の、八巻または鈴木まで電話をしてください。

内容や申込方法等を説明いたします。

電話 0553 - 20 - 2731

問3. 学費はかかるのですか？

基本学習費（年間5,000円）を徴収します。その他、クラブ活動・研修旅行の経費や傷害保険料・勸学院バッチ代等は自己負担になります。

問4. どんな内容について学習しますか？

第1学年では、「高齢社会を生きる」「ふるさと山梨に学ぶ」「日本の心を見つめる」「時代の潮流をとらえる」「地域を創る」の領域で、身近な問題から現代的な課題、歴史、文学、芸術、科学など多様な内容の、年間19回の講座（月2～3回）があります。また、入学式、勸学院祭、卒業式、講演会や芸術鑑賞会、小中高校生などとの交流、研修旅行、公開講座の受講等があります。

問5. 講義日の1日の内容はどのようになっていますか？

9時から朝の会、9時30分から約3時間の講義があります。昼食を終えて午後から各自が選んだクラブ活動、または、行事に向けた練習などに参加し、3時頃には解散になります。

問6. いろいろ忙しいけれど、私にも続けられるでしょうか？

「健康面に不安がある」「親の介護をしている」「自治会の仕事が忙しい」など、いろいろな事情のある方もいらっしゃいますが、時間を上手に使って意欲的に学園生活を続けています。



< 研修旅行 >

今時の携帯電話事情

このところ、携帯電話に絡んだニュースが多くなっているように思います。不審者を携帯カメラで撮影した勇敢な女の子の話題は、まだ記憶の中にあると思いますが、「子供用携帯電話」が盛んに宣伝され、その効用について賛否両論出される中、携帯電話を利用している小・中学生の数は、数年前に比べ、確実に増えているようです。

また、神戸市で昨年7月に自殺した男子高校生が、「学校裏サイト」といわれる仲間内の掲示板で公然といじめられていたことが明らかになりました。これは、私たちが「携帯電話の持つ影の部分」を、知らないでは済まされない」という気持ちを持つのに十分過ぎるくらいの事件だったと言えるでしょう。

携帯電話はとても便利です。上手に利用すれば、生活が豊かになるのは間違いのないと思います。しかし、まだ、私たちが知らないことも含め、携帯電話の影の部分がすでに大きな影響を与えているのも事実です。

私たち大人が、子どもたちの健全な育ちを保障していく立場から、今すぐこの問題を考えていかなければならないのではないのでしょうか。

携帯電話と小中学生の生活について

さて、ここで、資料としてある調査結果を記載します。これは、平成17年度の総務省委託調査で行われた「ICTメディアに係る子どもの利用実態及び利用環境等に関する国内外調査研究」(Benesse 教育開発センター)からの引用ですが、極最近、広範囲で偏りのない、有意性の高い調査結果ですので参考にしてみてはいかがでしょうか。(対象:小4～高2、標本数:14841、地域:大都市・中都市・郡部を均等)

1. 携帯電話の所持率

小4 =17.0%	小5 =17.9%	小6 =22.0%
中1 =35.0%	中2 =46.4%	中3 =54.0%
男女別	小男子=16.3%	小女子=21.6%
	中男子=39.1%	中女子=51.4%

2. 携帯電話の利用目的

小学生	家族にける電話	62.9%	家族に送るメール	42.2%
	友達に送るメール	37.3%	友達にける電話	36.3%
	インターネット	21.5%		
中学生	友達に送るメール	87.9%	インターネット	47.6%
	家族に送るメール	46.1%	家族にける電話	45.8%
	友達にける電話	38.3%		

小学生に比べ、携帯電話は、友達との文字を介したコミュニケーションツールである。

男女別	小男	小女	中男	中女
友達に送るメール	20.1%	51.2%	83.0%	91.7%

男子に比べ、女子の方が文字コミュニケーションが圧倒的に多い。

3. 携帯電話の利用に関する意識

	小学生	中学生
使うのが楽しい	66.9%	84.3%
かかってこないとき寂しくなる	27.0%	51.6%
することがないとすぐ見てしまう	37.4%	60.2%
会ったことのない人とやりとり	8.1%	21.3%

小中共に肯定的だが、携帯依存という傾向も想起される。目を引くのは、「会ったことのない人と電話やメールでやりとりすることがある」が、中学生で5人に一人いることである。

4. 携帯電話を所持する子どもの特徴:放課後の過ごし方。(所持・非所持別の遊ぶ場所)

		所持	非所持
小学生	自分の家	60.1%	65.9%
	公園や広場	62.1%	50.9%
	ゲームセンターやカラオケ	5.6%	6.5%
	ファストフード・ファミレス	6.8%	2.0%
中学生	自分の家	51.1%	58.0%
	公園や広場	28.2%	19.5%
	ゲームセンターやカラオケ	32.4%	13.6%
	ファストフード・ファミレス	18.3%	6.3%

所持しているものの方が、消費文化に近い遊び場を回答する割合が高くなっている。また、「お金の遣い道」項目(非掲載)にもその傾向が現れ、特に中学生で顕著で、「カラオケ・ゲームセンター・おしゃれ・交通費・食べ物」などの割合が高い。

今、何をすればよいのでしょうか

調査結果のいくつかについて紹介しました。実は、まだまだ興味深い結果が満載されています。「年齢や性別の違う人と話をするのが楽しい」が中学生の所持者に多いこと。「異性とのつきあい経験(中学生)」が所持者の方が顕著に多いこと。中学生では、所持しているものの方が「親からの働きかけが少ない」こと等々。結果からは、「単に携帯電話だけのことではなさそうだ。」との示唆が強く感じられます。

「フィルタリングが施してあるからいい」と安心する前に、「メディアリテラシーとは、今時の子育てには必要不可欠なもの、そして、「子育てのスタンスそのものが問われるもの」と理解して、取り組んでいってはいかがでしょうか。

地域教育推進事業へのご協力とご支援 1年間ありがとうございました。

私たち、地域教育推進の業務には主に次のようなものがあります。

保・幼・小・中・高・特・大の連携の推進。
地域の子育て支援の推進と子育て講演会・セミナーの開催。
地域教育情報誌「エリアウェーブ」の配布と情報収集。
峡東地域教育推進連絡協議会の運営。

これらの業務のうち主なものをあげながら、1年間をふり返ってみたいと思います。

峡東地域教育推進連絡協議会の開催

この協議会は、峡東地域の教育機関や行政機関、地域住民等の連携や構成団体相互の支援強化を図り、「望ましい教育環境・社会環境づくり」を推進することを目的としています。年1回の総会と2回の実務者会を開き、事業計画・役員選出・事業報告などを検討しています。

子育て講演会、連携セミナーの開催

第1回子育て講演会

8月7日(火)山梨市民会館

「地域教育とまちづくり」

講師；栗田真司氏(山梨大学准教授)

第2回子育て講演会

11月15日(木)

いちのみや桃の里ふれあい文化館

「豊かさの中で育てる生きる力」

講師；井上忠男氏

(日本赤十字秋田短期大学教授)

峡東地区保・幼・小・中連携セミナー

1月29日(火)山梨市民会館

・事務所からの提案と話し合い

「連携活動の課題と対応について」

・「心の発達に沿った保・幼・小・中の連携」

講師；鳥海順子氏(山梨大学教授)

地域の子育て支援の推進

「峡東地区子育てサポートブック」を作成し、管内関係機関に配布しました。

山梨市、甲州市、笛吹市の子育て支援センターや子育てサークルの情報を写真入りで紹介

その他、峡東地区及び県内の子育て支援・相談機関を紹介しました。ぜひご利用ください。

異校種間授業参観一覧表・県立学校出前授業一覧表の作成と配布

峡東管内の保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校・高校に配布し、その後活用状況を調査しました。今後も大いに利用されることを願っています。

保・幼・小・中・高・特・大の連携の推進

峡東地区の教育委員会や保育所(園)、各学校等を訪問しました。また、連携の実態調査結果を連携セミナーでも報告すると同時に、保・幼と小、小と中の段差の解消のための取組が紹介されました。

改めて異校種間の連携の重要性の大切さを痛感しました。

地域教育情報紙「エリアウェーブ」の作成と配布

年間12回、各回1300部を印刷し、管内の保幼小中高特大、教育関係機関、県庁関係課等へ配布しました。

多くの保育所(園)、学校等で増し刷りをし、職員の方や各家庭へ配布していただきました。また本年度は取材の要請も増え、多くの情報を紙面で紹介することができました。アンケートなどで、たくさんのご感想・ご意見をいただき、大変参考になりました。

このように、本年度の事業を無事に終えることができたことは、関係者の方々の多くのご協力・ご支援をいただいたおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

峡東教育事務所 地域教育推進

雨宮政文
中林睦彦
宮崎靖



「早寝・早起き・朝ごはん」で元気な毎日。

「あいさつ・声かけ」で広がる地域の輪！